

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2606
代表機関名	熊本大学
主担当研究者所属部局	大学院生命科学研究部
関連研究分野	消化器外科学
主担当研究者	馬場 秀夫
事業名	消化器癌におけるがん代謝メカニズム解明を目指した国際共同研究

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 5 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 7 名（講師 1 名＝689 日、助教 3 名＝633 日、507 日、355 日、非常勤診療医師 1 名＝496 日、研究員 2 名＝488 日、325 日）となった。 ・計画していた 2 名の招へいに対し、最終的に 6 名の招へいとなった。 ・派遣された若手研究者は派遣先である 6 研究機関において、癌細胞における各種観点からの研究を行い、目標を達成している。論文発表など学術的業績を上げているが、公表誌の中には極めてレベルの高いものが含まれており、質の高い成果であったことが窺い知れる。 ・若手研究者が帰国後も所属機関において研究を継続し、国際共同研究を行っていることは、今後の国際研究ネットワーク形成に資するものと思われる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・研究対象である食道胃接合部・胃・膵・肝・大腸などの消化器癌について、目標とした課題もしくはその分野で一流誌への論文発表が多くなされており、研究課題を国際的に展開させていく素地を築きあげていると評価できる。また、この研究成果が早期に臨床に結びつくことを期待する。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・派遣された若手研究者 2 名が日本学術振興会特別研究員として、1 名が自己資金で研究を継続しており、ネットワークの更なる強化が期待される。更に本プログラムとは別の公的資金、あるいは自己資金で後続の医師が研究ネットワークに参加しており、この研究ネットワークが更に継続・発展することが見込まれる。また派遣された若手研究者はそれぞれに研究業績を上げており、帰国後もネットワークの核として活躍する可能性はある。

- ・今後国際交流のための人材がどの程度確保できるかはわからないが、中国から招へいた研究者は、期間をすぎても研究を継続しており、ネットワークのハブとして機能を果たすための一層の努力を期待する。
- ・若手研究者からも新たな考えを導き出せる機会を設けるなどして、これまでの素晴らしい研究成果を一旦整理し、進むべき代謝研究の核心について見極め、研究グループ全体と機関とが連携して研究の方向性を考え合うことも重要である。

以上のことから、今後の展望は概ね高く評価できる。

総合的評価

評 点 4

コメント

- ・7名の若手研究者それぞれが、消化器腫瘍外科医という立場を超えて腫瘍学に自発的な姿勢を有し、業績を上げていること、また、他の資金を得るなどして研究を継続、あるいは新たに後続の研究者が若手研究者の派遣先であった研究機関に渡航していることから、実績と内容のある派遣プログラムになったと思われる。
- ・招へい研究者が自己資金により熊本大学に残り研究を継続している点も評価されるべきと思われる。

以上のことから、総合的に高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない